

2026 年度第 2 回豊岡市環境審議会 会議録

日 時：2026 年 7 月 21 日（火）13 時 30 分～16 時 00 分

会 場：豊岡市立交流センター「豊岡稽古堂」交流室 3－1

出席した委員：上田彩乃、川見絵里香、島崎卓也、高松弘道、武田禎子、西垣由佳子、
増原直樹、水嶋弘三、村田美津子、山室敦嗣（五十音順）

欠席した委員：安藤有公子、飯田勇太郎、木築基弘、小西明彦、田原美穂

事 務 局：コウノトリ共生課 課長 宮垣 均

課長補佐 竹内有子

脱炭素推進室室長 原田弥寿久

コウノトリ共生係長 松岡利昌

担 当 課：くらし創造部

生活環境課主幹兼生活環境係長 飯尾嘉浩

コウノトリ共生部

農業政策課農業政策係長 小田垣 聡

林務水産課参事 武中孝寛、林務水産係長 嶋田勝之

産業経済部

環境経済課主幹兼経済政策係長 高田久美子

（注）会議録は、発言内容を一言一句正確に記録したものではありません。発言内容をもとに一部表現（文言）を変えて表記している箇所があります。

1 開会（進行：事務局）

2 あいさつ

山室会長より挨拶

3 協議（進行：山室会長）

(1) 2025 年度環境報告書（案）について

【会 長】 第 2 部の目標像が①から⑩まであり、それぞれ個別に事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】 環境報告書は、3 回の審議会で審議いただき取りまとめる。第 2 部「目標とする姿」への取組み状況为目标像①から⑩の順番に審議いただき、各項目について目標の達成状況を 3 段階で評価いただく。本日は、第 2 部の取組み状況について審議いただく。事務局案として関連する活動をトピックスに挙げている。項目・内容について意見をいただきたい。

目標像① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【事務局】 森林整備面積について、2025 年度は増加している。これは里山防災林事業において、1 年目に調査を行い、2 年目に整備を行うため、昨年度調査を終えた箇

所の面積が大きかったため増加している。

林業賃労働者数について、2023、2024年度は増加傾向であったが、2025年度は労働者の高齢化等により減少に転じている。

木質バイオマス機器の利用については、ペレットストーブ、ボイラーの項目削除を提案する。前年度から報告しているとおりの、現在は、設置を推進しておらず、撤去が進んでいる状況であるため、この項目は削除させていただきたい。木質バイオマス利用機器設置補助件数については、少しずつ減少しており、特にペレットストーブはここ2年間、申請がゼロである。

森林環境譲与税の使途については、2025年度に林業従事者を増やすため自伐型林業推進事業補助金を創設した。規模にかかわらず森林の経営・管理を自ら行う自立自営的な林業を営む者に対し支援を行っている。

トピックスには、自伐型林業推進関連事業として、林業に学び、林業に関わるきっかけづくりのために、昨年7月6日に開催された「豊岡市自伐型林業フォーラム」について記載したい。

評価（案）は、森林整備面積が増えている、自伐型林業フォーラムや体験研修などの推進事業を行っていることをプラス評価、木質バイオマス機器設置補助の申請件数が減っていることでマイナス評価とした。

【会 長】 説明について、質問や確認等があればお願いしたい。

【委 員】 2024年度の環境報告書に盛り込んだ「ひょうご農林機構の分収造林の破綻の件」が今回抜けているのはなぜか。2025年3月の県議会において、新たな森林管理スキームに移行することが決定していたため、2024年度報告書にも記載いただいた。今回入れるのであれば、さらに踏み込んだ内容になると思う。

間伐材の発電利用について、2025年度に取引がなかった丹波市の記載を削除していただきたい。2025年度は934トンであった。発電利用以外の間伐材の再利用として、畜産農家へチップを834トン提供している。間伐材の再利用に関して、発電利用のみを記載するのか、畜産農家への提供なども盛り込むのか検討をお願いする。

関連して、市がJ-クレジットを進めていると聞いている。2025年度の評価に盛り込むことは難しいかもしれないが、トピックスなどへ記載してはどうか。

【事務局】 ひょうご農林機構の分収造林の件は、前回の記載を残したい。

発電部分の修正は対応したい。

畜産農家への提供部分の記載はどうさせてもらう方が良いか。

【委 員】 もともとペレット事業があり、その後の後始末をバイオマス発電に活用された流れがある。間伐材は発電利用だけではないということを捉えるなら畜産農家への提供も記載すべきだろう。畜産農家の提供はペレット事業以前から行われており、実績数字もある。畜産農家以外への提供もある。

【事務局】 本文内で「この他に畜産業への提供もあります」などの文言に整え、グラフは発電利用のみを記載する案はどうか。

【委 員】 イメージとしては、発電利用と畜産業での利用は別枠のように感じられる。ト

ピックスなど本文と分けてもいいかもしれない。

【会 長】 事務局案のとおり、本文内に「その他こうした用途にも使っている」ぐらいの文章を作成し、それを次回検討したい。

J-クレジットについては、トピックスに追加し、現在の状況や方向性を記載することを検討したい。

【委 員】 森林環境譲与税の使途について、2025年度の取組を赤字で記載されているが、2024年度の記載を残している意図はあるか。

【事務局】 最終的には削除させていただく。

【会 長】 評価（案）は、○が2つと▲1つとなっている。これについて意見はあるか。次回の環境報告書審議の際に、評価を最終的に確定するため、意見があれば伝えていただきたい。

目標像② 里山が様々に利用され、関わる人が増えています

【事務局】 有害鳥獣対策については、継続した駆除の取組の成果が現れ、農業被害面積は前年度に比べて減少し、被害額も微減である。2021年度にゼロであった有害鳥獣による林業被害は、2022年度以降再度発生しているが、2024年度以降は林業被害の金額・面積ともに増加傾向にある。

シカの捕獲状況については、これまでの捕獲によりシカの群れが西部に移動している現状と、豚熱の感染拡大によりイノシシの頭数が一時的に減少した影響でイノシシの有害駆除数は減少している。また、大雪の影響で山に猟に入れなかったこと、シカの警戒感が高まっていることも影響している。

緩衝地帯（バッファゾーン）については、2025年度は20.4ヘクタールと整備面積は増加している。

森林公園の利用については、2025年度は事業を4回実施し、参加人数が増加した。

トピックスには、ツキノワグマの出没防止対策事業として柿の木等の伐採を実施した「不要果樹の伐採事業」について記載を予定している。

評価（案）は、農業被害面積・被害額ともに減少しているためプラス評価、林業被害面積・被害額ともに増加しているためマイナス評価、緩衝地帯整備面積が増加しているためプラス評価、クマの出没防止対策のための不要果樹の伐採等を実施したためプラス評価とした。

【委 員】 目標像の具体イメージに「肉や皮も多様に活用されています」とあるが、肉（ジビエ）の利活用も実際に進んでいるのか。データやコラムで「こんなお店がある」といった紹介はできないか。

【事務局】 2025年度の事業としては記載できないが、今年度から肉の利活用の事業をやっている。

【担当課】 豊岡市内で3か所、シカ肉の処理をされている方がいる。有害捕獲したシカを回収いただき、そこで処理を行う事業を今年度から実施している。目標としては、1,000頭を回収する計画としている。

- 【委員】 農林獣被害について、農業被害は減少し、林業被害が増加している理由を知りたい。農業は対策がしっかり取れているが、林業は対策が取りづらいためなかなか減少しないということか。
- 【担当課】 農業の方は、駆除と防除の両方で対策をしており、駆除については一定の捕獲圧もかかっている。防除については、集落全体を囲う補助事業の活用により農業被害は、少し減っている。
- 山の方は範囲が広いので、囲いをしていても、どこか開いてしまうとそこから被害が出てしまう。
- 【委員】 現場としても、シカ網で囲うが、特に積雪時にその網が倒れてしまい、そこから侵入してしまう。いちごっこのような状況である。被害面積が増加しているのは事実だと思うので、この表記としては間違っていない。現場としては努力していくつもりである。
- 【委員】 目標像が「里山が様々な利用され、関わる人が増えています」となっているが、内容は獣害対策がほとんどである。例えば、「安心して散策できる里山が増えている」とか、「市民や訪れた方がその里山を利用して、楽しめている」といったことを記述に加えることはできないか。
- 【事務局】 目標像⑦「子どもたちが身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています」と重なる部分もあるため、調整したい。目標像⑦のトピックスには、人と森林のつながりに関するイベントについて記載を予定している。
- 【委員】 確認だが、今検討している環境報告書第2部は、最終的にまとめて、どこにどのように配られ、市民の人にはどう公開されるのか。
- 【事務局】 年度末に環境報告書として冊子を作成し、会長・副会長から市長に報告いただく。その後、市ホームページへ掲載する。また、印刷した冊子を図書館に閲覧用として設置する。
- 【委員】 関心のある市民が、自ら見ようと思って初めて見るができるものと理解した。
- 【会長】 評価(案)は、○が3つ、▲が1つである。これについても何か記載の要望や修正を含めてあるか。
- 【委員】 シカの警戒心が高まっていることや、狩猟者の減少等により狩猟数が大きく減少していることは大きな点だと思うが、その点を評価に入れていない理由があるか。また、目標像②「関わる人が増えています」に関わる、森林公園の利用で事業への参加人数が増えているというのは、目標像と合致する内容であるため、ぜひ進展のあった内容として評価に入れてもよいではないか。
- 【事務局】 2025年度の狩猟数がまだ確定していないため、どれくらい減っているかが分からない状況である。
- 森林公園の利用の件も含めて、次回の審議の際に検討いただきたい。
- 【委員】 主な取組みの方向(13)「地産地消を進めます」はどこに関連しているのか。
- 【事務局】 ジビエに関する取組みになる。

目標像③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【事務局】 農業の現状については、新規就農者から認定農業者への移行も出始めており、経営耕地面積が増え、耕地の集約化が進んでいる傾向が見て取れる。

環境にやさしい農業では、イネカメムシが発生した影響で、一時的に「コウノトリ育む農法」の作付面積が減少した可能性がある。

国の補助制度の変更により、冬期湛水の実施面積が減少したことを記載した。学校給食における豊岡産野菜の利用率は、2019年度から7年連続で目標値を達成した。

学校給食への「コウノトリ育むお米」に提供については、2025年度は10月から翌3月までの期間で提供できたことを記載している。

休耕田の利活用については、管理者の高齢化により管理面積を減らす管理者もあり、ビオトープ水田面積は減少し続けている。

トピックスには、コウノトリ育むお米生産部会が発足20周年を迎え、その節目として開催された「コウノトリ育む農法フォーラム」について記載を予定している。

評価(案)は、冬期湛水の実施面積が減少していることをマイナス評価、学校給食での地場産物の目標利用率を達成し続けていることをプラス評価、ビオトープ水田面積が減少していることをマイナス評価とした。

【委員】 冬期湛水の実施面積の減少でマイナス評価となっているが、今後プラスに転じる見込みはあるか。

【担当課】 冬期湛水の実施面積は、環境保全型直接支払交付金の取組をされている方に関して記述をしている。この制度外で事業を実施されている方もあるかと思う。2025年度から冬期湛水の取組みが多面的機能支払交付金に組み込まれ、また5年間冬期湛水の面積を維持しなければならないという要件となり、見通しがわからない農家など、事業実施をやめた農業者もある。そうした要因もあり、冬期湛水の面積が減ったと考えられる。今後増えるかというのも不明である。

【事務局】 「コウノトリ育む農法」は、冬期湛水が必須ではなく、冬期湛水が減ったから、必ずしもコウノトリ育む農法の面積減につながるというものではない。5年間続けることに対しての懸念点でやめられて、一時休止されている方がいるところである。

【委員】 具体イメージに「多様な生きものと触れ合う子どもの姿をよく見かけます」とあり、他ページでは写真が載っているので、この項目でも生きものと触れ合っている子どもの写真を入れてはどうか。

【事務局】 目標像⑦に同じような記載があるため、その部分でどう整理するかということになる。

【委員】 「ビオトープで生きものと触れ合っている子ども」に限定してもよいと思うがどうか。

【会長】 意見を参考にさせていただき、どのように入れるのがよいか検討したい。

目標像④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【事務局】 不法投棄対策については、監視カメラや看板を増やし対策を強化したことを記載する。

子どもたちの体験活動については、市内全小学校で実施したことを追加で記載する。

トピックスには、国土交通省と豊岡市の共催で、中郷遊水地整備工事現場で開催された、遊水地の仕組みを知る体験型イベント「GO!GO! なかのこうリバーキッズフェスタ」について記載を予定している。

評価（案）は、子どもたちの川での体験活動が定着していることをプラス評価、不法投棄対策が強化され、地元の意識も高まっていることをプラス評価とした。

【委員】 前年度は、アユの産卵場造成事業についてトピックスに記載されていたが、継続して行っていて、参加人数も増えている感じが。水産資源保全の項目に産卵場造成事業について記載してはどうか。市で参加人数や産卵状況を確認できるか。

【事務局】 産卵数はわからないが、造成した面積はわかる。

【委員】 2024年度報告書に面積が記載されているので、面積のグラフを掲載するのはどうか。

【会長】 次回の審議会に向けて、新しく表を加えることを検討いただきたい。

【委員】 竹野スノーケルセンターなど、いろんな体験活動を実施されているところもあると思うので、そういうところも掲載してはどうか。

【事務局】 外部の取組情報がどうしても市に集まりにくい状況がある。可能であれば情報提供をいただき、掲載を検討したい。

【会長】 （５）清掃活動について、今回はどのような取組みが掲載されるのか。

【事務局】 2025年度は「川の清掃活動」を記載したいと考えている。どこか活動を行っている団体等の情報があれば、提供いただきたい。

【委員】 評価について、「不法投棄対策が強化され、地元の意識も高まっている」ことをプラス評価とされている。2024年度は「不法投棄防止看板や監視カメラの設置など、対策を行っているが、不法投棄は減っていない」として、マイナス評価となっている。ほぼ同じ内容でプラス評価、マイナス評価になる理由が分からない。

【事務局】 防止看板の配布数が約３倍に伸びている。不法投棄に対する地元の意識が高まっているためプラス評価とした。

【委員】 設置の要望が増えてきて「地元の意識も高まっている」と少し加えることで、より分かりやすくなるのではないか。

【事務局】 今回は「地元の意識が高まっている」ところを評価している。前年度とは評価視点が違うところである。

表記の仕方や評価のあり方について、皆様のご意見をお聞きしたい。

【会長】 不法投棄対策のグラフを見ると、配布数や監視カメラの設置が伸びている。実

態としては、窓口で地域から要望があって配布するというのか。

【担当課】 看板は、区長からの要望で希望枚数を配布している。カメラは、不法投棄が頻発するところの話を聞いて、試験的に設置している。

【会 長】 来庁された区長に実情を聞いたりしているのか。

【担当課】 人目につかない場所などが投棄されやすい場所であると聞いている。区での対応をお願いしているが、何かよい対応策が無いかとお尋ねいただいた際に、看板の設置等を案内している。

【会 長】 事前予防というよりも事後対策であると理解した。

評価の理由は、次回までに少し検討し提案をさせていただく。

目標像⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【事務局】 2025年度の市外の野外繁殖は、新規営巣5市町を含めて30市町で繁殖している。新たな生息地は、新温泉町、上郡町、島根県奥出雲町、石川県能登町、石川県珠洲市である。

市内29か所に人工巣塔が設置されているが、個体数が増えてきたことにより、電柱への営巣行為が起きており、撤去事例が26件あった。

小さな自然再生活動支援事業では、オオキンケイギクの駆除活動など、外来種駆除に関する活動が増加している。

湿地ボランティアの参加実績は、加陽湿地が1回58人、田結湿地が5回127人、戸島湿地が8回162人であった。

トピックスには、外来種対策事業として、「いれかわる生きものたち」という冊子を作成したことを記載する。これは見慣れない生きものが増えていることなど、身近な自然の変化に気づいて、外来種の侵入に関心を持ってもらうことを目的として作成したものである。

評価（案）は、小さな自然再生活動助成金の申請が増加したことをプラス評価、円山川自然再生事業により、湿地の改良と造成が行われるとともに、ボランティアによる湿地保全活動が継続されていることをプラス評価、外来種対策行動計画に基づき、地域住民や事業者と共同での外来種対策を実施していることもプラス評価とした。

【委 員】 関連ページのURLを二次元コードにして掲載できないか。

【事務局】 二次元コードを掲載する。

【会 長】 湿地整備面積のグラフが2023年から27.4haで一定だが、これはどう見るのか。

【事務局】 整備済み面積が27.4haである。おそらく中郷遊水地の整備面積が次回以降入る形となる。

目標像⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

【事務局】 歴史博物館の来館者数は、児童小説とコラボした企画展が盛況であり、過去最高の来館者数となった。

地域コミュニティの活動事例として、コミュニティきのさき「草刈り講習会」み

ち草プロジェクト」)、コミュニティ新田「六方川探検隊 いきもの観察会」の2件を掲載する。

トピックスには、2025年に約6年ぶりに再開された神鍋山の山焼きを取り上げる。

評価(案)は、各地域コミュニティで特色ある活動が行われていることをプラス評価、地域の自然・歴史・文化に関する資料等を作成し、地域で学ぶ子どもたちに浸透していることをプラス評価、少子化・高齢化の進行等により、伝統行事の継続が難しくなっている点をマイナス評価とした。

【委員】 「草刈りで出た草木を燃やす」という表現は、野焼きと誤解を招くかもしれない。

【委員】 ドラム缶みたいなものに入れて焚火のように焼いているが、野焼きに該当するのか。

【担当課】 原則として野焼きは禁止されており、ドラム缶を使用して焼いても野焼きに該当する。

【会長】 次回までに文言等を検討し、改めて提案していただきたい。

【委員】 伝統文化の文脈で、城崎コミュニティでは歳時記を完成させて、その読み聞かせを行っている。また、コミュニティ中筋でも草刈り講習会をやっている。これらの内容に変えてもよいのではないか。

【事務局】 担当課(地域づくり課)と相談させていただき、改めて内容を調整させていただきたい。

【委員】 以前から、目標像⑥「様々な世代の人々が地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています」と、環境と何の関係があるのか、という疑問があった。今回の「草刈りを地元の人と協力してやりました」、「六方川を探検しました」というところは環境と地域と関係があるなど感じている。
しかし、グラフにある歴史博物館の来館者数と環境がどう関係するのかわからない。目標像⑥だけが環境の色が薄く感じ、違和感がある。

【事務局】 10年前に、第2次環境基本計画が作られ、それに基づく報告書であるため、現時点でこの部分を変えることはできない。
事務局としても、次期計画の策定でこの部分については整理をしたいと考えているため、また意見をいただきたい。今の時点ではこのままとしたい。

目標像⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【事務局】 生きものとふれあう体験学習の実施小学校は、前年度から1校減となった。

「コウノトリKIDSクラブ」では、コウノトリとの共生に取り組む活動や湿地での体験作業を通じて、コウノトリをシンボルとした生物多様性保全の取組について学んだ。

「出張! 田んぼの学校」では、地域コミュニティや子ども会、地域団体など、田んぼやビオトープ、水路、川での生き物調査を行った。

「高校生等地域研究支援補助」の申請件数が、前年度から半分に減少した。

学べる地域環境としては、ビオトープが減少している現状を記載している。

トピックスには、昨年7月に開催された「人と森林のつながり体験・展示イベント」について記載を予定している。約200人の参加があり、のこぎり体験、チェーンソー体験など、豊岡市人と森林のつながり推進協議会の活動紹介コーナーなどもあった。

評価（案）は、コウノトリKIDSクラブに引き続き募集人数以上の応募があることをプラス評価、高校生等地域研究支援補助の申請件数が減っていることをマイナス評価とした。

【委員】 ビオトープ水田面積について、本文に「ビオトープ水田の設置を進めています。」と記載があるが、全体としては減少している。地域によっては増えているところもあると思うが、全体として減少しているので、注釈を付けた方がよいのではないかな。

【事務局】 目標像③「休耕田の利活用」の記載と同様に、「ビオトープ水田での設置を進めています。管理者の高齢化等により減少傾向になっている」という記載へ変更を検討したい。

目標像⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減ります

【事務局】 各データを更新し、最新の人口を記載した。

評価（案）は、ごみの排出量は徐々に減少していることをプラス評価、クリーン但馬10万人大作戦の参加人数が減少していることをマイナス評価とした。
トピックスには、不法投棄に関することとして、建設業協会等の事業者が実施しているごみ回収事業について記載を予定している。

【委員】 「市民1人当たりのごみの計画収集量」の「計画」とは何か。予定されているものなのか、実際の数字なのか。

【担当課】 家庭ごみの収集部分のことを計画収集という。そのため、実際の数字になる。

【委員】 実際の排出量とすると、評価として「ごみの搬入量が減少している」としているが、人口の減少に伴いごみの搬入量は自然に減る。やはり1人当たりの排出量を見ないと、プラス評価にはならないと思う。そうすると、この1人当たりのごみ収集量は微増している。ごみの搬入量全体が減っているからといって、プラス評価はどうかと思う。

【事務局】 ご意見のとおり記載を変更したい。

目標像⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【事務局】 公共交通利用者数は、イナカーの路線が減ったことにより、利用者数も減少した。

太陽光発電については、本文に2024年度から自家消費型の太陽光発電システムも補助対象という記載を加えた。

トピックスには、脱炭素先行地域採択について記載を予定している。事業年度は2026年度からであるが、2025年度に計画が採択されたため、ここで記載する。概要は、豊岡市が提案者となり、環境省が推進する脱炭素先行地域、日高・神鍋エリアでの計画が選定された。期間は2026年度から2030年度までの5年間である。

評価（案）は、住宅・事業用太陽光発電設備の設置が広がっていることをプラス評価、日高・神鍋エリアなど市民や事業者の中に脱炭素の意識が高まっていることをプラス評価とした。

【委員】 公共交通利用者数の表が、豊岡市が運行しているコバスとイナカーのみの記載となっている。公共交通だとJRや全但バスなどの路線バスもある。グラフのタイトルを「豊岡市が運行する」という記載にしてはどうか。

【事務局】 ご意見のとおり記載を変更したい。

【委員】 省エネ家電の補助事業について、今回記載はできないか。

【事務局】 2026年度現在実施中の事業となるため、今回は記載しない。

目標像⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【事務局】 環境経済認定事業者数を更新した。新規認定事業者は、3者となっている。

「コウノトリの舞」認証登録品目は、37品目である。品目は次回更新する。

「コウノトリ育むお米」について、再掲になるが、イネカメムシが発生した影響で、一時的にコウノトリ育む農法の面積が減少した可能性があるという記載をした。また、2025年度のコウノトリ育むお米の出荷量は約843トン、うち約12トンが海外に輸出されている。

コウノトリ目撃情報提供数について、2026年2月からシステム障害が発生しており、2025年度数値が出せない状況である。参考値として、2026年1月末までで39,361件の目撃情報が寄せられている。

ボランティアツアーは、計1回17人の参加があった。

トピックスには、昨年開催された大阪・関西万博への出展について記載を予定している。9月24日から26日の間、「ひょうごフレンドシップウィーク」が開催され、その中で、兵庫県・新潟県と共同で、コウノトリ野生復帰やコウノトリ育む農法の展示を実施し、来場者数は18,000人ほどあった。

評価（案）は、環境経済認定事業者総数が年々増加していることをプラス評価とした。

【委員】 コウノトリ市民科学のシステム障害は、復旧しているのか。

【事務局】 現在のところまだ復旧していない。

【委員】 環境経済認定事業者の総数は2年間増加しているが、取り下げ件数10件というのは何か。

【担当課】 今まで取り下げた累計件数が10件である。2025年度の実取り下げは0件であった。

【委員】 認定は、お墨付き以外にメリットはあるのか。

- 【担当課】 認定事業者には、既存補助制度における優遇措置を用意している。例えば、通常は補助率3分の1のところ、認定事業者であれば2分の1に引き上げる等の優遇がある。
- 【委員】 コウノトリの認証品について、農作物だと28件から33件に新しく5件増えているという理解でよいか。
- 【担当課】 増えているという理解でよい。
- 【委員】 新たに登録されたものが分かるような形で表記していただけるとよい。
- 【委員】 団体数が減って、登録商品数が増えていることは、どう理解すればいいのか。
- 【担当課】 一部の方が複数の品目に取り組みされており、手続き上も共通する部分があることから、慣れた方が複数品目を申請されるケースがあるためである。
- 【委員】 評価が1つだけだが、認証品の増加を評価に入れて、次回2つ目の評価として追加してはどうか。
- 【会長】 目標像①から⑩、全て協議を終えたが、全体を通して、確認し忘れたことや言い忘れたこと等も含め、何かご意見やご質問があればお願いしたい。
- 【委員】 全体的なことになるが、それぞれの目標像の【主な取組みの方向】に番号のみの記載のため、内容が分からない。内容を確認するため目次に戻る必要がある。紙面のスペースや文字の大きさの問題があるかもしれないが、改善できないか。次期計画の策定の審議でも意見があったが、内容は覚えられる程度にするのがよいと思う。
- 【事務局】 目次のページに戻っていただき、見ていただくことになる。環境報告書自体100ページ弱あるため、ページ数が増えることで手に取っていただきにくくなる不安もある。紙面の体裁については改善できるか持ち帰らせていただく。
- 【会長】 それでは、本日いただいたご意見を踏まえて、11月に開催する第5回審議会で再度提案する。次回、報告書の内容と評価を決めたい。
- 【事務局】 第6部「2025年度の環境に関する取組みについて環境審議会の意見」については、11月開催予定の審議会で協議いただくため、意見記入用紙に記入いただき事務局へ提出いただきたい。
- 【会長】 今日の内容を踏まえ、いろいろと意見があると思う。昨年度の報告書を参考にさせていただき、意見をいただければと思う。

4 その他

【事務局】

次回の審議会は8月20日（木）午後1時30分から開催する。審議事項は、第3次環境基本計画の策定について予定している。

5 閉会

西垣副会長あいさつ